第３章　富士急行線（大月～河口湖）

河口湖(8:12)～富士急ハイランド(9:40)～富士山(富士吉田、10:05)～月江寺(10:40)～
下吉田(11:10)～葭池温泉前（よしいけ、11:28)）～寿(11:50)～三つ峠(12:25)～
東桂(13:20)～十日市場(13:55)～都留文科大学前(14:10)～谷村町(14:37)～
都留市(14:55)～赤坂(15:25)～禾生（かせい、15:50)）～田野倉(16:40)～
上大月(17:40)～大月(17:55)

本年第7回目のウォーキングは、2006年6月3日（土）うす曇の中実施する。本日の天気も数日前から神経質になる位新聞等の天気欄に注視した。曇り空ではあるが、明日は天気がもちそうということで、河口湖から大月までの富士急行線26.6kmに挑戦することにする。このコースは前回の勝沼ぶどう郷から大月間を歩いた際に決めた。朝4時に起床。5時29分南林間始発で横浜線（町田駅）に乗り継ぐ。大月までの切符（1,110円）を購入しホームに入場するや否や5時46分発八王子行きが来る。鳥沢から大月まで車両は私一人となる。八王子6時15分発で高尾駅へ。高尾駅始発で大月駅を目指す。大月行き電車は、車庫の線路に置かれていた。回送で大月方面から高尾駅に入場して来る。待ち時間を利用して高尾駅の周りを確認する。線路等が早朝降った雨で濡れ手いた。天気が気になったため、ホームの方に手を出して雨が降っていないかどうか確認する。高尾駅の南側の見上げたところに京王線のホームがあった。また、西側には山があった。

大月には7時頃到着。河口湖までの切符（1,110円）を購入して、富士急のホームに入場する。2両編成の車両が待っていた。車両には数名の乗客が乗っていた。しかし、八王子6時34分発大月7時20分到着の乗客が大勢乗ってきて、たちまち電車は満席の状態となる。乗客の中には、都留文科大学前で降りた部活に向かう女学生もいた。いすみ鉄道や小湊鉄道に比べ乗客の陣容が異なっていたような気がする。大月発7時23分発の電車で河口湖を目指す。夕べは久しぶりの遠足気分になったこともあり、眠れなかったため本来ならば本日歩くコースを注意深く観察するところであるが、うとうとして観察できず。それ故、本日の一番ネックとなる富士吉田駅の鉄道状況を見逃す。

富士急電車　　　　　　　　　　河口湖駅

河口湖駅には 8 時 12 分に到着。駅に到着するや否や少しではあるが、太陽が顔を出す。駅舎は茶色ぽおい山小屋風の建物で、まだ新しい感じであった。駅前のロータリでは道路工事をしていた。最初河口湖をカットして富士急線をつたい歩きをしょうとする。しかし、折角ここまで来て、河口湖も見ず歩くのは意味がないと考え、急遽予定を変更する。200m位歩いた先を引き返す。これが功を奏す。誤って富士山の方向に向かおうとしていた。地図を確認し、駅まで引き返し、駅前で道路工事をしている人に河口湖への道を聞く。突き当たりを真っ直ぐ進んで道なりに行くと河口湖があるとのことであった。国道 137 号線も左折すべきところを誤って右折する。山の下に河口湖があると思ったことと標識も右折した先にあるような表示であったからである。500m位歩き何となく自分が選定した方向が誤りであると思い、念のためガソリンスタンドの人に河口湖の道順を聞く。右手には富士急線が見え、地図を再度確認してみる。案の定誤った方向に進んでいた。

河口湖

リカバリーに 20 分位費やす。八王子神社（8 時 50 分）を通過した先に河口湖通りがあった。この通りを 200m位歩いた先に河口湖（9 時 00 分）があった。河口湖に着く頃にはまずまずの天気になった。湖畔前には数台観光バスが止まっていた。湖面には足こぎボートがあった。遠くには湖を横断する河口湖大橋があった。観光客の一人に河口湖をバックに記念写真を撮ってもらう。河口湖は海抜が 750m位との表示があった。河口湖には昭和 48 年、フコク生命入社の立命館大学の仲間 6 名と来たことがある。この湖への訪問はそれ以来で懐かしさがこみ上げてくる。このときは MT 富士に宿泊した記憶がある。

富士河口湖観光課　0555-72-1111
富士河口湖観光総合案内所　0555-72-6700
http://www.fujisan.ne.jp

10 分位河口湖に滞在し、再度国道 137 号線に戻り、富士急ハイランド駅（9 時 40 分着）を目指す。赤い大観覧車やジェットコスターが印象的な遊園地が駅に隣接してあった。この駅は袋小路の中にあり、出入りは踏切を経由しないと行けない。偶然にも下り JR 車両が踏切前を通過して行く。

富士急ハイランド駅

富士吉田駅　　　　月江寺駅

9 時 55 分、富士吉田警察署の先に中央自動車道があった。その先に下吉田駅方面の案内があった。この近郊では、この道路標識の意味がわからなかった。道路の下に想定をしない鉄道が突如現れる。この鉄道がどこの鉄道かわからなかった。当初は廃線になった線路かそれとも車庫のための線路かと思っていた。実はこの鉄道は富士吉田駅からピストン式で先頭が入れ替わり、大月に向かう線路であった。このような駅は、小田急藤沢駅や JR 新潟駅と同様であった。駅舎（10 時 5 分）がビルの中にあった。踏破した段階で判明したのであるが、この駅が富士急線の中心駅であった。金鳥居（かなとりい）交差点（10 時 10 分）でどちらの方面に進むべきか迷う。右手には高さ１０m位の富士山か開いた鳥居があった。当初は右手に進むものだと思っていた。鉄道の線路が全く見えない。不安になり、公園前の住人に尋ねる。予想もしない方向の回答を頂く。私が考えた方向と逆方向であっ

たので驚く。自分はとんでもない方向に進もうとしていた。なぜなら左折すべきであったからである。ここで、地図を確認にして、これまでの状況を点検し、私の進むべき進路が間違っていたことを確認する。本日は、道路の随所で駅への案内があったので、金鳥居交差点以外は円滑に進むことができた。

下吉田駅　　　　　　特急電車

金鳥居の交差点を左折し国道 139 号線を進む。1.5ｋｍ位進んだ先の月江寺通り（げっこう）を 300m位進んだ先にグリーン色の字で書かれた月江寺駅を 10 時 40 分見つける。駅の線路に沿い歩こうとするが、200m位行った先で行き止まりとなる。富士五湖自動車という看板を掲げた企業があった。駅まで引き返し、長閑な川が印象的な川をつたい歩きし、下吉田駅を目指す。下吉田駅前の看板を見つける。本来ならば直進した先に駅があったが、誤って左折し、300m位進み自分が誤って月江寺駅に引き返しいることに気づく。リカバリーに 10 分位費やす。下吉田駅には 11 時 10 分到着。11 時 17 分下り特急電車（富士山）とすれ違う。

葭池温泉駅　　　　　寿駅

三つ峠駅　　　　　東桂駅

線路につたい歩きした先に無人駅である葭池温泉駅（よしいけ：11 時 28 分）があった。踏切を越えた先に葭池温泉があるとの表示もあった。中央自動車道を前方に見かけたので回避するため、踏切を越え、鉄道を右手側にする。寿駅を 11 時 50 分見かけたので、草むらを通り鉄道を横切り寿駅に向かう。この駅も無人駅であった。途中手打うどんの看板を見かけるが少し早いと考え先を急ぐ。グリーン色を背景とした活字の三つ峠駅には 12 時 25 分到着。駅前の憩（いこい：0555-25-2789）という手打うどん屋に入る。5 名位の先客がいた。500 円の冷やし手打うどんを注文する。麺はさぬきうどんに比べ一段とこしがあった。キャベツと油揚げがのった調理法であった。つけ麺と思ったが想定外なので少し驚いた。でも、味はなかなかのものだった。実は昨日、会社の後輩からこの沿線の名物は手打うどんと馬刺しと聞いていた。それで手打うどんを是非食べたいと考えていた。この駅近郊の三つ峠には、平成 11 年頃来たことがある。三つ峠駅を通り過ぎて左手方向に案内板を見つける。大菩薩峠に次いで高校ハイキング縁の峠であった。

十日市場駅　都留文科大学前駅

谷村町駅　都留市駅

13 時 12 分、西桂町から都留市となる。この近郊で東桂自動車教習所の看板を目にする。富士急の中間点駅である東桂駅（白を背景とした青字）には、13 時 20 分到着。駅看板の下には俳句コンテストで入賞した作品が２０位あった。13 時 35 分、道路の下から富士急線が現れ、右手に線路を見ながらの歩きとなる。本日は、国道 139 号線と富士急線が縄を編むように歩く進路のため、JR 線に対し右になったり左になったりする。13 時 44 分、河口湖行きの電車とすれ違う。無人駅の十日市場駅には 13 時 55 分到着。

桂川を跨る佐伯橋を渡った先に都留文科大学前駅があった。学校は線路から南川に 200 m位行った先にあった。国道 139 号線を真っ直ぐ直進したため、駅は見えるが駅には到着できず。頭上に富士急線があった。その先に都留文科大学前駅への遊歩道があり、この道

を行った先に都留文科大学前駅があった。駅は最近出来たのであろう。途中、ベンチもあり、若者の憩いの場所としても利用されている感じであった。近代的な様相のする駅舎であった。駅前には大型スパーと学生を対象にした美容院があった。この駅の踏破にも少し行き過ぎたためリカバリーに 10 分位要す。国道 139 号線に戻るや否や、相撲やレスリング等で関東大会出場の祝いの垂れ幕のある山梨県立谷村工業高校（14 時 24 分）を右手の方向に見つける。

白色を背景に黄土色の活字である谷村町駅に 14 時 37 分到着。駅前で冷たいコーヒを購入し一服する。駅前にはタクシーが 2 台止まっていた。後で判明したのであるが、この駅が都留市の中心部であった。そのためか住所に中央という地名が使われていた。この駅を出た先の都留市役所の前には、水車を利用した新規小型水車実験装置があった。研究開発として、信州大学、長野県立短期大学、新潟工科大学の協賛名が記載されていた。市役所の近郊には谷村第一小学校があり野球の試合をしていた。谷村町駅と同じ色合いをした都留市駅には 14 時 55 分に着く。丁度この駅で上り下り電車が離合する。市がつく駅は、これまでの記憶の限りでは野田市駅、川越市駅、山梨市駅を含め 4 番目である。いつも思うのであるが、同一名称がなければ市は蛇足に見える。一服を兼ね、15 時 3 分、都留市駅東店のセブンイレブンに入る。茶字に白を背景とする赤坂駅には、15 時 25 分到着。駅前にはとんこつらーめん屋があった。

赤坂駅　　禾生駅

リニアモーターカー　　田野倉駅

生出神社（15 時 35 分）を行った先に禾生（かせい : 15 時 50 分）駅があった。この駅に到着するや否や 2 両編成の上り特急電車が通過して行く。16 時 4 分、朝日川を跨る落合橋を少し行った先の頭上に富士急線があり左手側から右手側になる。ここで本日初めて 200

m位の上り坂に差し掛かる。同時に頭上 20m位に実験用リニアモーターカーの線路があった。窪川を跨る甘酒橋を 16 時 30 分通過。白を背景に紫字である田舎倉駅には 16 時 40 分通過。

17 時 10 分、都留市から大月市となる。電柱には大月町大月の地名もあった。そういえば、富士吉田駅ビルに富士銀行と看板もあった。経費面等からメンテが十分なされていないのだろう。市境の右には富士急の線路があり、しっかりした土手が右に、左には深い川岸があった。少し行った先で線路が道路の下で左手側になる。大きな橋が見えた先を左手に行った先に大月駅があった。都留高校の先に上大月駅があったのにもかかわらず通り過ぎ大月駅近郊まで行く。上大月駅かと思って行ったところ、線路を跨る陸橋であった。陸橋の前にいた人に聞いて上大月駅まで引き返す。途中わからず、2 名の通行人に聞いてやっと 17 時 40 分、上大月駅に到着する。

駅は道路から 10m位下がった先にあった。この駅は無人駅で看板も白の看板に黒字であった。大月駅には 17 時 55 分到着。18 時 24 分の電車で家路に向かう。最近巨人の調子が上向きのため、西武戦を聞きながらの帰宅となった。結論的には、李のホームランで同点に追いつき、清水のさよならホームランにて 4 対 3 で勝つ。これで 5 連敗のあと 4 連勝となる。自宅には 20 時 35 分到着。万歩計は 62,213 歩であった。

上大月駅　大月駅

本日は、富士急行線のすべて 18 駅を写真に収めることに成功した。本日は上大月駅を除き、主要道路から案内板があり分かりやすかった。また、大きな川やトンネルにも妨げられることなく進むことができた。途中の風景は秩父鉄道と似ていた。本日ひとつの発見は、駅舎と駅名の看板に工夫がなされていることであった。当初、富士急線は難しいと考えていたが、国道 139 号線が富士急線に沿ってあり、歩きやすいいコースであった。それに、うす曇空でウォーキングとしては最高のコンディションであった。残念なのは富士山を見ることができなかったことである。